

(17) なばな類 (アスパラ菜ほか)

※「なばな類」に掲載した農薬を「なばな」に使用する場合、希釈倍数等、使用時期／回数が異なることがあるので注意する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒腐病 <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>campestris</i>	1. 連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低2年輪作する。 2. 発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 3. 排水を良好にする。 4. 黒腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 苗床では初発から2～3回散布する。	初発から 3～4回	M1 24・M1	コ サ イ ド 3 0 0 0 (混) カ ス ミ ン ボ ル ド ー
2 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 4～5年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3. 早播きのものは防虫ネットで被覆する。 4. 軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 苗床では初発から2～3回散布する。	本葉9～10枚のころから 2～3回	M1 M1	コ サ イ ド 3 0 0 0 ヨ ネ ポ ン 水 和 剤
3 白さび病 <i>Albugo macrospora</i>	1. 排水を良好にし、過湿を避ける。 2. 過繁茂しないよう、播種量を適正にする。 3. 発病株は早めに抜き取り、圃場外に持ち出し、処分する。 4. 雨よけ栽培、施設栽培を行う。	発 病 前 か ら 出 蓄 前	U17 21 M1 M5	ピ シ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル ラ ン マ ン フ ロ ア ブ ル ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
4 ベと病 <i>Peronospora parasitica</i>	1. 排水をよくする。 2. 肥料切れに注意する。	発 病 前 か ら 出 蓄 前	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
5 白斑病 <i>Cercospora brassicae</i>	1. 連作を避ける。 2. 肥料切れに注意する。	発 病 前 か ら 出 蓄 前	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
6 黒斑病 <i>Alternaria brassicae</i>	1. 肥料切れに注意する。	発 病 前 か ら 出 蓄 前	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
7 根こぶ病 <i>Plasmodiophora brassicae</i>	1. 苗床は無病な土を使用する。 2. 前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との3年以上の輪作をする。 3. 石灰窒素を施用し、土壌の酸度を6以上に矯正する。 4. 圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5. 発病株は根部を含めて完全に除去する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. フロンサイド粉剤、ネビジン粉剤、ネビリュウは、水かけ開始は薬剤処理後2か月以降を遵守する。	播 種 ま た は 定 植 前	29 36 36	フ ロ ン サ イ ド 粉 剤 ネ ビ ジ ン 粉 剤 ネ ビ リ ユ ウ
8 アブラムシ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 育苗床では防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. 周囲にシルバーテープをはる。	播 種 時 発 生 初 期	4A 4A 4A 4A	ア ル バ リ ン 粒 剤 ア ス タ ー ク ル 粒 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
9 ヨトウムシ類	1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	播 種 時 発 生 初 期	1B 15	カ ル ホ ス 粉 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

なばな類（アスパラ菜ほか）

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
10 ハスモンヨトウ	1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある。	若 齢 幼 虫 期	6 11A 11A 11A 11A 11A UN	ア フ ァ ー ム 乳 剤 バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 フ ロ ー バ ッ ク D F サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル ブ レ オ フ ロ ア ブ ル
11 ハイマダラノメイガ	1. 秋播栽培では早播きしない。 2. 育苗床では防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある。 2. 8～9月の高温、乾燥時に被害が多い。	発 生 初 期	6 11A	ア フ ァ ー ム 乳 剤 チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤
12 コナガ	1. 紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2. 育苗床では防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある	発 生 初 期	3A 5 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	ア デ ィ オ ン 乳 剤 デ ィ ア ナ S C ア フ ァ ー ム 乳 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T ト ア ロ ー フ ロ ア ブ ル C T バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 エ ス マ ル ク D F フ ロ ー バ ッ ク D F チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル
13 ハモグリバエ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	発 生 初 期	15	カ ス ケ ー ド 乳 剤
14 キスジノミハムシ	1. 育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2. アブラナ科野菜の連作を避ける。 3. 湛水処理によって、土壌中の幼虫や蛹を死滅させる。	播 種 時	3A	フ オ ー ス 粒 剤
		発 生 初 期	4A 4A	ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する